

市民フォーラムのご案内

テーマ: もしかして認知症?



11月10日(土)午後1時半から亀田総合病院Kタワー13階ホライゾンホールを会場に、「認知症」をテーマにした市民フォーラムを開催いたします。(定員80名、参加費無料、要申込み)

当院の岩澤れい子認知症看護認定看護師が、認知症の基礎知識や身近な人に認知症を疑う症状が出たらどうすればいいのか、認知症の方への関わり方などをご紹介します。

なお、フォーラムは事前申し込みが必要です。参加を希望される方は11月3日(土)までに電話またはFAXにて氏名、性別、年齢、所属、電話番号を添えて下記までお申込みください。

【申込み・問い合わせ先】

亀田総合病院 カスタマーリレーション室

(担当: 大川・小熊)

TEL: 04-7099-1230 / FAX: 04-7099-1231



鴨川と渋谷を結ぶ高速バス 10/1から運行開始

鴨川と渋谷(渋谷マークシティ)を結ぶ高速バス路線(鴨川～渋谷線)が10月1日から運行を開始しました。

運行本数は1日8便(4往復)で、当院から片道2時間半で渋谷駅に到着いたします。

ご利用にあたって、詳しい運行時間や料金は鴨川日東バス本社営業所(04-7092-1234)または日東交通(株)鴨川営業所(04-7092-2354)までお問い合わせください。



便失禁に対する無料電話相談

便失禁でお悩みの方に、治療法を含む適切な情報を提供する目的で、毎月、専門医や皮膚・排泄ケア認定看護師による無料電話相談を行っています。10月は下記の日程で無料電話相談を実施いたしますので、この機会にどうぞご相談ください。

■日時: 10月10日(水)、24日(水) 午後2時～4時

■電話番号: 04-7099-1206(直通)

診療科名変更のお知らせ

神経内科は2018年10月1日より、「脳神経内科」へ診療科名を変更いたします。これは、日本神経学会による標榜診療科名変更の通達に基づくもので、診療内容の変更はありません。また、診察室もこれまでどおり、2階4番受付となります。

【注意事項】再診受付時の脳神経内科と脳神経外科の誤りにご注意ください。

インフルエンザ予防接種 予約受付中



毎年、冬から春はインフルエンザの流行シーズンです。手洗いや咳エチケットで感染経路を断つとともに、流行前に「予防接種」を受けることが有効です。

当院では10月1日(月)よりインフルエンザ予防接種の予約受付を開始しました。【接種期間は10月22日(月)から12月26日(水)まで】となります。

予防接種はインフルエンザを発症する可能性を減らし、もし発症しても重症化を防ぎます。ワクチン接種から実際に効果を発揮するまで2週間程度かかるため、お早めに接種ください。

■対象年齢: 6か月～成人

■接種回数: 6か月～12歳は2回、13歳以上は1回

■費用: 4,000円 ※市町村によって補助があります

また、免疫のはたらきが十分でない乳幼児や65歳以上の方、慢性の持病(呼吸器疾患、糖尿病、慢性心不全、肝炎や肝硬変などの慢性肝疾患など)をお持ちの方は、あわせて「肺炎球菌ワクチン」も接種するようにしましょう。ワクチン接種のご予約は予約センター(☎04-7099-1111/8:00～17:00〔日曜・祝日除く〕)まで。

bayim「MEDICAL UPDATES」

春原佑紀さんがラジオパーソナリティーを務めるベイエムの午後のワイド番組『it!! (イット)』では、毎週火曜日午後3時から、当院のスタッフが出演する「MEDICAL UPDATES」のコーナー(約10分)が好評放送中です。

10月は認定看護管理者の原 洋子看護師が出演いたします。どうぞお聴きください。

レストラン亀楽亭よりお知らせ

誠に勝手ながら10月から年内いっぱい、日曜・祝日を定休日とさせていただきます。利用者の皆様にはご不便をおかけしますが何卒ご理解願います。



消化器外科 角田 明良

第2話 肛門の筋肉を切らない痔瘻の手術

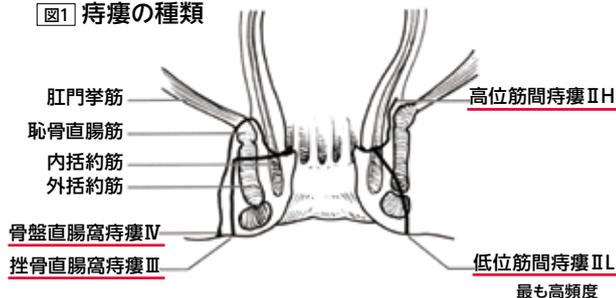
痔瘻(じろう)とはどういう病気ですか

痔瘻とは肛門の中から肛門の外側の皮膚に連続する、瘻管のことです。細いトンネルを想像していただくと解りやすいです。

痔瘻はどうしてできるのですか

肛門の組織には肛門腺があり、粘液を産生して肛門に分泌します。ちょうど、唾液腺でつくられた唾液が口腔内に分泌するのと似ています。この肛門腺が細菌感染して、膿だまりとなったものが「肛門周囲膿瘍」です。そして、膿だまりが肛門の外側の皮膚から排出して、瘻管になったのが痔瘻です。痔瘻にはいくつかのタイプがありますが最も多いのが「低位筋間痔瘻」です(図1)。

図1 痔瘻の種類



どのような人が痔瘻になりやすいのですか

軟便または下痢がちの方に多く、若年から中年の男性に高頻度です。

痔瘻はどのように診断するのですか

外来診察でおよその診断が可能です。指で触ると瘻管が硬く触れるのです。瘻管の構造をみるために有効なのが、肛門超音波検査です。親指くらいの棒状のプロローブというものを肛門にいれて画像を撮影します。痛みも無く、外来で短時間に容易にできますので便利です。肛門超音波検査で瘻管の構造が不明な場合は、MRI検査をします。

痔瘻はどのように治療するのですか

痔瘻は原則的に手術で治す病気です。でも初めて痔瘻になった方は、自然に治癒することがあるので、少し経過をみる必要があります。2~3か月の経過で治癒しなければ手術を考慮することになります。また、瘻管からの膿の排出が持続するか、または繰り返す場合は手術が必要です。

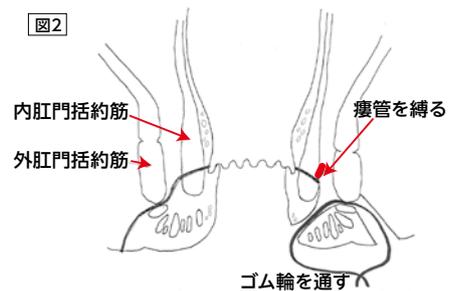
痔瘻の手術方法を教えてください

痔瘻はほとんどの場合、肛門括約筋を貫通するので、手術では肛門括約筋の処置がポイントになります。以下、最も多くみられる「低位筋間痔瘻」の手術について述べます。

1) 切開・開放術：瘻管を肛門括約筋も含めて切開・開放する手術です。開放後に瘻管の表面にある、炎症のある不良な組織を取り除きます。この手術は再発が少ないとされ、広く普及している手術ですが、欠点は肛門括約筋が一部切れてしまうので、手術後に便失禁やガス失禁をきたす恐れが指摘されています。

2) 括約筋間瘻管結紮術：内肛門括約筋と外肛門括約筋の間で、瘻管をしぼって、外肛門括約筋より外側の瘻管を切除する方法です。ゴム輪を通して汚染した体液が排出するようにします。この方法の利点は肛門括約筋を切らないので、肛門の締まりに変化はありません。欠点は切開・開放術より再発がやや多いことです(図2)。

図2



入院期間はどのくらいですか

手術のために行う麻酔は通常、脊椎麻酔です。麻酔後はすぐに自立歩行ができませんので、どの手術も最低1泊2日の入院が必要です。手術後の痛みが大きい場合には2泊3日になることがあります。

退院後の通院はどうなりますか

退院後1週間後に外来受診していただきます。その後2~3回の受診が必要で、全体で2~3か月を要します。

手術をしなければどうなりますか

当然のことですが、痔瘻の症状が続くことになります。また、10年以上にわたって痔瘻による炎症が持続する方で、まれに「がん」が発生することが報告されています。



庵原看護師が優勝 I.S.U茨城サーフィンクラシック さわかみ杯

プロサーファーとしても活躍する当院の庵原美穂看護師が、8月30日~9月2日に茨城県大洗町大洗海岸で開催された国内最大のサーフィンイベント JPSA2018 『第23回I.S.U茨城サーフィンクラシック さわかみ杯』で優勝を飾りました。

2年ぶりの優勝を受けて庵原看護師は「職場の皆様にはいつも応援していただき感謝しております。10代の選手と戦うことは苦難の連続ですが、齢に負けず成長できる姿を魅せていけたらと思います」と今後の抱負を語ってくれました。